

コロナ禍における管理栄養士の 実践活動

人間栄養学部人間栄養学科では、1年次の専門教育科目に「管理栄養士基礎演習」を開講しています。専門科目の導入にあたる科目です。

当該科目では、4年間での学び、全体のカリキュラムの他、管理栄養士とは何か等基礎的な内容を学びます。そして、自分や相手を知る機会を通し、「食」と「栄養」との関わりについて一層関心を高め、意欲を持って学びが進められるようになることを目的としています。当学科が掲げる学びの4領域（臨床栄養、食育・地域栄養ケアスポーツ栄養、フードサービス）における管理栄養士の役割や現状についても学びます。授業は、講義の他にグループワーク、実際に管理栄養士が活躍する実践活動現場の見学（臨地実習）、見学報告会（プレゼンテーション）、2年次以降の授業で活用する栄養価計算ソフトの演習、テーブルマナー講座など内容が豊富です。

特に実践活動現場の見学は、管理栄養士の社会的役割を理解・体感する入学後初めての貴重な現場体験となります。これまでの実績は、保育所や病院、保健医療センター、食育活動を行っている企業、薬品企業、市民ランナーを対象としたレストラン等で、千代田区と隣接した新宿区、近隣の墨田区、そして江東区や葛飾区等、千代田三番町キャンパスの近隣地域から神奈川県への施設まで様々です。施設により、提供給食の喫食風景や厨房、カンファレンス、回診等を見学したり、給食の試食、入所者とのコミュニケーション等を体験することもあります。いずれも管理栄養士の実践活動には欠かせない要素です。見学や体験を通して実際を知り、管理栄養士からの詳しい説明や質疑応答によりさらに理解を深めます。これらの見学や体験は、学生にとってこれからの勉強に対する意欲や将来の自分をイメージすることに繋がっています。

テーブルマナーは千代田区内のブッフェ発祥かつ格式高い帝国ホテルで学びます。少しだけお洒落な格好でコース料理をいただきながら、料理やマナーについて手解きを受けます。同級生と大きな円卓を囲みながら美味しいお料理をいただき、コミュニケーションを取ることも大切な経験となります。

このように管理栄養士基礎演習は、千代田区をはじめとする近隣地域と関わりながら成り立っており、学生の学びへと繋げている科目です。しかし、2020年のコロナウィルス感染症拡大により社会情勢が大きく変わり、当該科目も内容の大きな見直しを余儀なくされました。



帝国ホテルデジタルパンフレット&ホームページより引用

結果として、コロナ禍での実践活動現場の見学（臨地実習）は諦めざるを得ませんでした。さらに、帝国ホテルでのテーブルマナー講座は終息まで延期することになりました。2020年度は地域と関わった授業が実施できず、実践活動現場を体感する科目としては大きな痛手となりました。そこで見学の代替として、実際に活躍されている管理栄養士を講師に招き、Zoom授業を開講する方法へ舵を切り替えました。

学生の希望で、講師は臨床栄養、スポーツ栄養の2分野からとしましたが、いずれも活躍する卒業生を招いたことは学生にとって良い刺激になったようです。身近な存在の活躍を目の当たりにすることで将来像がイメージしやすく、大変好評でした。

当該科目の現場見学のメリットは、管理栄養士の活躍の場を体感できる、活躍する管理栄養士と直接関わることができる等様々ありますが、見学できるのは1施設に限られます。しかし、コロナ禍での外部講師のZoom授業は、履修学生全員が講師の数だけ実践活動を直接知ることができる点で、メリットが感じました。

若い卒業生の活躍（平成29年卒業：公認スポーツ栄養士）

11月4日（水）5時限目、世田谷区の他大学で管理栄養士養成課程の教育に携わっている卒業生の猿田綸咲（さるとつかさ）さんに講義をしていただきました。積極的かつ地道に活動した結果、人脈を広げ、今では多くの競技者から信頼される存在に。今回は公認スポーツ栄養士の実践活動に加え、緊急事態宣言中における競技者へのサポートについても詳しく講義をしてくださいました。彼女の地道な苦勞多き活動歴は、スポーツ栄養に携わりたいとの思いで入学した学生も多い中、多くの反響がありました。スポーツ栄養の分野で活躍したいと願う学生は多いものの、華々しいアスリートの栄養管理を仕事にするのは狭き門です。さらに公認スポーツ栄養士の認定には実践経験等が必要となるため、新卒で公認スポーツ栄養士に認定されるのは安易でないのが実情です。そのような中、猿田さんは本学を卒業後、日本大学大学院でスポーツ栄養学を学びながら地道に実践活動を続け、2020年10月に公認スポーツ栄養士として認定されました。現在の公認スポーツ栄養士認定者数はまだ415名（2020.10）です。彼女はおそらく最年少認定者であり、本学卒業生第1号です。



去年は東京オリンピック・パラリンピックの準備でスポーツ栄養分野の管理栄養士が多忙を極め、見学交渉段階から厳しい状況が続いていました。その後のコロナ禍。この状況の中、外部講師の講義に切り替えることで、また違ったメリットが得られることを確認し、収穫を得ることができました。それらを今後を活かしつつ、千代田区内で管理栄養士の実践活動現場の見学施設開拓も進めていきたいと考えています。

プロジェクト概要

●テーマ

コロナ禍における管理栄養士の実践活動

●パートナー

帝国ホテル、その他施設

●担当教員

城田 直子 准教授

●実施期間

2018年4月～

